

SSKP 船橋障害者自立生活センター

2018年1月

う え い ぶ ニ ュ ー ス

85

〒273-0004 船橋市南本町 8-25 ラックス船橋 TEL : 047-432-4554 / FAX : 047-432-4565
URL : <http://www.cil-funabashi.org/> E-mail : cil-funabashi@cil-funabashi.org



～新年のご挨拶～



明けましておめでとうございます。……と言っても、この機関紙が皆様のお手元に届くころには小正月も終わってすっかり普段の日常に戻っていることと思います。

さて、去年は私たちの自立生活センターにとって、16年間慣れ親しんだ事務所からの移転という大きな出来事がありました。立地条件や家賃などの財政上の問題、それにももちろんバリアフリーに関する事など、移転に当たってはクリアすべき条件がいくつかありました。以前の機関紙でもご報告した通り、幸いにも家主さんをはじめとする理解ある関係者に恵まれて、それらのハードルを何とか乗り越えて、無事にピカピカの新事務所に移ることができたわけです。

こうした多くの皆さんの理解と支援に報いるためにも、今年は今まで以上に活動を活発化させたいと思っています。後ろのページにご案内が載っていますが、今年のイベントの第一弾は講演会「難病と共に生きる」です。現在、三百数十種類の難病が障害福祉サービスの対象として位置付けられています。しかし、制度の谷間で十分なサービスや医療を受けることが出来ずに苦しんでいる難病患者がいます。そこで、今回はお二人の難病患者の方に来ていただいて、難病患者のおかれた現状と今後の課題などについてお話していただきます。私たちにとって、今後の活動の方向性を占うものにもなりそうです。是非多くの方のご参加をお待ちしています。

いずれにしても、今年も私たちの活動に一層のご参加とご協力をお願いいたします。

代表のぼやき・・・



～「やっぱりチャリンコ怖い」～

恐れていたことが起こりました。私の妻がある日、街で用を足してバス停から歩いて帰宅する途中で、後ろから来た自転車に背中からぶつけられ、転倒しました。幸い、大した怪我はなかったようですが、帰宅後に調べてみたところ、背負っていたリュックの中のメガネケースが使い物にならない程に変形していました。裏を返せば、たまたまリュックに入れてあったメガネケースがクッションの役割を果たしたとも考えられ、一歩間違えれば大きな怪我に繋がっていたかもしれません。しかも、妻はその時、歩き疲れて歩道の脇の街路樹を保護する枠につかまって休息を取っていたそうです。つまり、道端に立ち止まっているところにいきなりぶつかってきたわけですが、その自転車の乗り主は、自分自身も自転車ごと転倒して“痛い、痛い”と呟くばかりで、倒れこんだ妻に対しては“大丈夫ですか”とひと声掛けただけで、特に謝罪の言葉もなく走り去ったということです。

この「事故」の背景としていくつかの要素が思い浮かびます。まず、現場周辺の歩道の道幅が極端に狭いことです。我が家は千葉と東京を結ぶ国道と京葉道路のインターチェンジを繋ぐ道沿いにあります。この道は、高速道路に繋がっているだけあって、車道は片側二車線と余裕がありますが、歩道は車いすでも走る時にもかなり注意を要する程に狭いです。特に街路樹が植えられている所はその分余計に狭くなっている訳です。さらに、妻が帰宅したのが、日が暮れて暗くなった後でしたので、自転車から見えづらかったことも考えられます。この歩道には街路灯がほとんど設置されていないので、夜間は暗闇に近い状態となって特に怖いです。要因の三つ目として考えられるのは、我が物顔で走る自転車族の存在です。妻にぶつかった人が我が物顔で走っていたかどうかは分かりませんが、ただでさえ狭い歩道をスピードを出して近づいてくる自転車がとて多くて、前にも書いた通り私自身ヒヤッとすることが毎日のようにあり、マナーの悪さを痛感しています。

このように、色々な要素が重なって今回の事故が起きたと考えられるのですが、いずれも以前から感じていた問題であり、冒頭に「恐れていたことが起きた」と書いたのもそのためです。特に自転車利用者のマナー違反については、自立生活センターが設置している福祉作業所の仲間の間でも恐怖と怒りの声が上がっています。

第二、第三の事故を防ぐためにも抜本的な対策が望まれます。

私がまだ子どもだった頃 その2 ニシザキさんは陰陽師？

宮尾おさむ

その1で書いたように、私が住んでいたのは4軒長屋の一軒で、左隣のK夫の家とは間がありました。右隣のニシザキさんの家とは一つ壁でつながっていました。しかも、そこがわずかな隙間になっていて、それがちょうど私の部屋の壁のところに当たっているのを発見したのです。私は夢中になって、その隙間に自分の目をくっつけ、壁の向こうを覗きました。

すると、何やら動くものがあります。私はますます夢中に覗きましたが、それはニシザキさんの仕事の組み紐の一部でした。紐の一部が白く見えたに過ぎなかったのです。

しかし、壁越しに隣の家の中を覗くという行為は私にスリリングな興奮をもたらしました。私はその後、ニシザキさんのことについて子供らしくない興味を持つようになり、母にもいろいろと尋ねたりしたのを覚えています。

ニシザキさんの本職は組み紐の職人ではなく、割烹旅館の仲居さんのようでした。具体的には何をしていたのかわかりませんが、時々「今日卸したので」といって主にカツオの骨付きの部分を持って来ました。いわゆる“アラ”ですが、手早く煮て食べると切り身などよりも美味しかった記憶があります。

ニシザキさんが、そういうものを届けてくれるのは、働いている割烹旅館にお客があった時ですが、そこには子供だった私になど想像もつかない世界が隠れていたと思います。

ある時、お使いから帰ってくると、「車が止まっているよ」と母が言ったことがありました。長屋に通じる路地の入口に白の乗用車が止まっているというのです。ガソリンが欠乏し、車の少なかった時代です。不思議に思っていると、母が近所の人と見てきて「ニシザキさんはコレらしいよ」と言いました。すると、近所の人「間違いないわね」と言ったので、母は私ではなく、近所の人に言ったのだと気がつきました。そしてコレというのは、ニシザキさんと特別な関係の男の人だと知ったのです。

それから別の日になり、ニシザキさんの家から男の人の声が聞こえました。何しろ壁でつながっているお隣です。よくはわかりませんが、所々で「殺すぞ」や、「ただじゃおかない」という言葉が入ります。同時に、何かがぶつかるみたいな物音が聞こえ、女性の悲鳴が響いてきました。顔色を変えた母がやはり近所の人と駆けつけると、すぐに続いて巡査の人がやってきました。世にも不思議なことが起こったのはそのあとです。

突然、隣の玄関が開いたと思うと神代の時代のような形をしたニシザキさんと、もう一人の男の人が、手にした鉦と太鼓を打ち鳴らし、踊りながら飛び出してきました。

チキチキドンドン ドンチキチ

賑やかな音ばかりでなく、二人して叫んでいました。

「弥栄 弥栄 天照大神 弥栄」

しかし、しばらくすると二人は家の中にそそくさと戻り、何の物音もしなくなりました。集まった人たちが急に静かになったので、拍子抜けの表情になった時です。誰かが「あ、へびだ」と叫んだので、見ると何やら地面を滑っていくものがあります。気がつくまで玄関から外に這い出していました。

「お前もへびになったの？」と言われてしまいました。母と近所の人では言うことが違いました。母は小さな細いへびだったと言うのですが、近所の人によると「青大将じゃないの」と言うのです。このあと家の中に入ると、母がこっそり言ったことがあります。それは、ニシザキさんが安倍晴明になって、男の人をへびにして追い出したのではないかということです。まだ8歳ぐらいだった私には話の意味がわかりませんでした。安倍晴明の話はラジオで聞いたことがありました。藤原時代の昔、晴明が都に入り込んだ魔物を陰陽の術で退治したという話でしたが、驚いたことにそれ以後、ニシザキさんの家に男の人がやってくることはありませんでした。

どちらが先だったか記憶が定かではありませんが、日本軍が米国の空母レキシントンや英国の戦艦プリンスオブウエルズを沈めたのはこの頃です。私も母も、それから左隣のK男も、たわいなく喜んでいたので覚えています。 終わり

ピア・カウンセリング集中講座を 開催しました！！

NPO法人船橋福祉相談協議会から助成をいただいて実施しているピア・カウンセリング集中講座を今年度も12月12日から三日間にわたって開催しました。寒い時期での開催となり、リーダー陣以外は初参加の方ばかりですので体調等心配しましたが、途中で脱落した人もなく、無事に全日程を終了することが出来ました。

受講生は、スタッフ兼任で参加した二人も含めて合計で7名でした。障害の種類も身体、精神、発達障害と多様で、休憩時間や二日目の交流会でも幅広い話題に花が咲いていました。また、今回初めての試みでしたが、聴覚に障害のある参加者への情報保障として、船橋市福祉サービス公社のご協力により、すべてのプログラムで要約筆記者の方にも加わっていただきました。

後ろのページでは参加者の皆さんの感想をご紹介しますが、参加する姿勢も皆さん積極的で、それぞれの生活や障害と正面から向き合い、文字通り涙あり笑いありの講座となって、いい形で感情を開放できたのではないのでしょうか。

ほぼ全員が長期講座への参加を希望されているということで、来年度へ向けての「うれしい宿題」となりました。参加者の皆さんはもとより、裏方で講座を支えてくれたスタッフにもお礼を言いたいと思います。本当にありがとうございました。そして、またお会いしましょう。



2017年12月12日から14日に行いましたピア・カウンセリング集中講座に参加された方々の感想を記載いたします。

初日より2日目、2日目より3日目。

皆さん、上手にお話しされていて素晴らしかったと思います。

障害についてや CP・・・について等、重たい話題もありましたが暗くならず明るく話せていてこんなに褒められていいの！！！！と感激して涙してしまいました。

ピアカンネーム きゃなたん様

率直に、ピア・カウンセリング集中講座に、参加する事ができて、本当に嬉しかったです。ピア・カウンセラーに、ピア・カウンセラーの講師に、なりたいと思う反面、他にもたくさんチャレンジしたいこと、リアルにしていきたいことが、ありすぎて、もう一度優先順位を決めようと思いました。

そして、ピア・カウンセラーを足掛けに、相談支援専門員にもチャレンジできるなら、相談支援専門員になって、ピア・カウンセラーとしての経験を大切に、障がい者自身が自己決定できるような、プランの提案や、生活が明るく楽しくなるような、相談支援専門員+ピア・カウンセラーになれるように。

また、自身の経験を生かし、障がい当事者と行政などの間に入り、交渉などのサポートができるように、更に努力していきたいと思います。

ピアカンネーム さとち様

行く前からずっと緊張していて初日は自己紹介で泣いてしまいましたが、3日間で自分と向き合い色々な事を考えたり気持ちや過去なども見直したり振り返ることができたり新たな知識や目標も身につけられました。そして講座を終えた後も改めて感謝することだったり深く語り合える時間が充実していました。このような貴重な講座に参加出来たことを大変嬉しく思いますし、今後にも役立ててもっと力をつけて行こうと思いました。

この「きっかけ」に感謝です。

ピアカンネーム しばちゃん様

今回初めて、ピアカンの講習にスタッフとしてだけではなく受講生として参加させていただきました。熱心な仲間とともに障害について一緒に話しあえてとてもよかったです。自分を認めてもらえたような気がしてとても充実できた3日間でした。ありがとうございました。

ピアカンネーム なお（船橋障害者自立生活センタースタッフ）

参加に至る前に知ったこのピアカウンセリングとは何かというところから始まって、パッと概要を調べているだけだと「自分になにか利点があるようなのだが、何があるのかよくわからない」というのが本音でした。

障害を持ち合う人間同士でのカウンセリングということで「お互い（障害を）持ち合っている立場」という「話しやすい」ゲートとして、これまでの生活の中で抱えているネガティブな部分を相手に聞いてもらい、そしてポジティブな部分を相手に教えてもらう、引き出してもらうことで、必ずしも自分は全てを制限された人間ではないということを思い出してもらう。

そのために障害をもつ相手のことを聞く、そして同じように障害をもつ自分のことを聞いてもらう。お互いの良いところを見つける。

「自分（あなた）はいろんなことができる。だからもっといろんな人に触れてみよう。」というポジティブな考えに至るようにコミュニケーションをとる。

これを目標にお互いでカウンセリングし、相手と自分自身のケアをするのだと今回の実践で理解しました。いくつかのルールもありますし、やってみると意外とわかったようでわからなかったりするところもありますが、ぜひこのコミュニケーションをもっと理解して今後の生活に役立てていきたいと思います。

ピアカンネーム ポン（船橋障害者自立生活センタースタッフ）

皆さん方々お世話になりました。

ピアカンに参加するまで知らなかった障がいの方々がいてとても勉強になりました。

ピアカンネームのおじさんの話はとても参考になりました。

知に満ちた、創造性、パワフル、愛し愛されたい、喜びに満ちた存在が自分自身が自己決定し解決していく力、そして生きる力の話を聴いていて自分でできているところはあるんだなあと思いました。話しを聴く前は全然できていないと思っていました。

3日間のうち、2日目が一番ピアカンの中で濃かった1日でした。

普段の生活では感じられないたった3日間こんなに時間が長かったっけというほど、最終日は今日で終わりなんだという実感が湧きとても濃密な時間でした。

3日目は精神的にとっても疲れて、でも行かなくちゃと踏ん張って行きました。

皆さん方々お世話になりました。

ピアカンネーム みーたん様

この講座中に、何度、前サブリーダーの K さんの偉大さを思ったか知れません。頭に入れているようで、ピアカンの肝心なところを緊張もあったのか抜けてしまったり、疲労感に負けてしまっていたり。一受講者として講座を受講するのは、だいぶ違いました。もっと事前に勉強しなければ、一朝一夕には前に立てるものではないと思いました。S さんにかかなり負担をおかけしてしまったと思います。反省しています

ピアカンネーム りえ様

ピアカウンセラーは、クライアントが決断することに背中を押してあげる存在なのだと改めて知ることができました。そして、ピアカンのことだけでなく、障害者が暮らしていく中で大事なことを学びました。とても充実した3日間でした。ありがとうございます。長期講座も是非参加したいと思っています。

ピアカンネーム れいこ様



センターのうごき

11月	12月
3日（金） 市制施行80周年記念式典	5日（火） 障害者週間記念作品展
8日（水） フェイス相談日	6日（水） 障害者週間記念作品展
9日（木） 自立支援協議会	7日（木） 障害者週間記念作品展
13日（月） ピアカン集中講座打ち合わせ	11日（月） 事業所合同説明会
14日（火） 認定審査会	12日（火） ピアカン集中講座
16日（木） 事業所集団指導	13日（水） ピアカン集中講座
17日（金） 事務局会議	14日（木） ピアカン集中講座
	19日（火） 認定審査会
	28日（木） 仕事納め
	2018年1月
	5日（金） 仕事始め

会費納入のお願い

今年度の会費をまだお支払いいただけていない方、同封の振込用紙をご利用の上、お早めにご納入下さいますようお願いいたします。

年会費は、正会員が3,000円、賛助会員が5,000円、団体が10,000円となっております。

同封の振替用紙について

この機関紙には全員の方に郵便振替用紙を同封させていただきました。これは会費、介助料、

カンパなどを送っていただく際に、便利のように同封したものです。

なお、納入状況など、ご不明な点は事務局までお問い合わせください。

編集後記

今回、同封しているチラシは講演会の案内になります。講演会のテーマは「難病」です。最初のページでも述べたように、制度は昔に比べればよくなっております。が、制度の谷間はあり、周りへの認知・理解はまだまだです。難病者と障害者とは別です。この講演会で少しでも難病に対する理解が深まれば幸いです。 職員 小松直勝

カンパのお礼

前号以降、以下の皆様より温かいカンパをいただきました。

厚くお礼申し上げます。（順不同）

田尾幸三様

発行所 東京都世田谷区祖師谷3-1-17
ヴェルドゥーラ祖師谷102号室
障害者団体定期刊行物協会

頒価 100円